

(2022 年度) ちゅうでん教育振興助成

高等専門学校の一部 (2023 年度助成)

成果報告書

学校名・申込代表者	明石工業高等専門学校 東野 アドリアナ
活動・研究のテーマ	一期一会：組み立て式茶室作成を通じた国際交流と地域貢献

〈活動・研究の意義および活動報告〉

本活動は日本文化、日本建築特有の空間「茶室」が体験出来る場を作ることを目的とした。千宗且が行なった「今日庵」と言う茶室の写しを、室内に組み立てが出来るように設計し、制作をした。組み立て式茶室の制作過程を通して、本校学生のものづくりに対する意識とスキル向上を図った。また、公開講座や高専祭などのイベントに併せて地域の子供達に茶室の空間を体験してもらい、アンケートを集計した。

本活動に関わった学生は、茶室制作班と茶室を利用した企画運営を行うイベント班の2班に分けた。茶室制作班は主に建築学科高学年の学生、イベント班は低学年と他学科の学生で構成した。イベント班は、伝統建築や茶室についての基礎知識がなかった。

まずは、「今日庵」の起こし絵を組み立て (図1)、茶室の構造を理解させた。その後、茶室の見学と茶杓削り体験 (図2、図3、図4)、竹中道具館の見学を通して知識を深めた (図7)。竹中道具館の見学には台湾からの短期留学生在が参加し、国際交流も行なった。また、地域の小中学生にした、茶室の起こし絵を組み立てる公開講座とお茶会が行われた (図5)。香港の留学生とも、茶室の起こし絵を組み立てるワークショップを行なった (図6)。

5年生の卒業研究の一環として茶室の設計を行なった (図8、図36)。茶室の制作は、夏休み期間の9月から開始し、茶室の制作には図9～図23が表すように多くの学生関わった。

また、11月はじめの高専祭では、イベント班が茶室の見学を企画し、実施した (図33、図34、図35)。茶室を体験した人たちにアンケートを実施した。アンケートでは、学生が参加者の好きな言葉を集めて、その言葉を茶室の腰貼に描いた (図38、図40)。このイベントは、茶室がまだ完成していないにも関わらず、とても好評であった。イベント班は、この1年の活動をまとめて学内で発表し、次年度もこのプロジェクトを継続する予定である。

この他、5年生の学生は、第29回高専シンポジウム in Nagaoka で発表した。

また、完成した茶室は、3月8日から10日まで、明石イオンショッピングモールの2番街で展示し、内部を公開した (図37、図39)。

他に、組み立て式の茶室を制作し、それを通して本校学生、留学生や地域の小中学生に日本伝統建築の空間体験ができる場を作った。茶室の計画と制作、茶室を利用したイベント企画と実施に際して、多くの学生

が関わり、茶室に対する基礎知識を取得する教育効果が見られた。

本研究では、本校学生のものづくり体験とスキル向上に効果があり、地域の小学生が日本文化や建築に興味を湧くことができたことが、アンケート結果から明らかになった。今後も、引き続き茶室を利用したイベントを継続する予定である。

また、今回の活動を論文にまとめて、2024年に、シンガポールで行う工学教育学会のISATEで発表する予定である。更に、卒業研究の一環として茶室を設計した学生が、2024 ISAIAに論文を投稿し、査読の審査待ちとなっている。

